令和８年度　成人保健専門委員会　会議要旨

開催日時	令和８年 10 月２日（金）　19 時 30 分～20 時 45 分
開催場所	霧島市総合保健センター３階大会議室
出席委員	加倉委員、林委員、藤田委員、山﨑委員、蔭山委員、吉永委員、原田委員
事務局	【健康増進課】野村課長、川野主幹兼健康づくり推進グループ長、坂口主幹兼保健管理グループ長、大田主幹兼成人保健予防グループ長、冨吉主幹、小島サブリーダー、溝口主査、徳重主査、酒井主事補

公開・一部非公開又は非公開の別	公開	傍聴人数	０人

議事

（１）健康きりしま 21（第４次）計画　第４章について
　　分野別の具体的な取組【成人保健に関する分野】
（２）健康きりしま 21（第５次）計画策定に係るアンケート内容について
（３）その他

協議結果等の概要　　議：議長　　委：委員　　事：事務局

（１）健康きりしま 21（第４次）第４章　成人保健の分野について
⇒　事務局が資料に沿って説明。委員からの質問、意見は以下のとおり。

議：　コロナ禍の影響が落ち着き、経年比較がしやすくなった。目標の達成状況には差があるが、全体として取組の成果が表れており、今後も活動を継続してほしい。

委：　糖尿病と歯周病の関係について、住民への周知が不足しているので、運動サロン等で啓発してほしい。また、口腔機能の維持やかかりつけ歯科を持つことの重要性も啓発してほしい。なお、高齢者を含め、家族や孫への受動喫煙の影響も周知する必要がある。高齢者の血圧測定は定着しており、これまでの啓発の成果が見られるので、若い世代への周知も必要だと感じている。

委：　糖尿病性腎症の栄養指導について、希望者が少ないと感じた。医療機関で指導を受けていることを理由に希望しない人も多いため、病院での栄養指導・保健指導の強化や、市の方に繋ぐという形も必要だと感じた。

事：　令和７年度までは訪問して栄養指導の希望を確認していたが、令和８年度は、まず電話で状況を聞き、希望者へ案内する方法に変更した。今年度は未治療者への支援を重視し、HbA1c7%以上の人を訪問している。

委：　医療機関に栄養士がいない場合が多い。栄養指導の単価が低いため、医療機関での人材確保も難しい。過疎地域で閉院する医療機関もあり、医療機関での特定保健指導の実施体制の確認や検討をする必要がある。また、高校生や働き始めた若者の食生活への意識を高める取組を第５次計画で検討してほしい。

委：　薬剤師会では小・中学校で薬物乱用防止の教育が多くなっており、飲酒・喫煙の教育は少なくなっている。特定健診受診者や妊婦、子育て世代だけでなく、幅広い世代へ講演等を通じて周知する必要がある。

委：　若年層の特定健診受診率が低いことが課題であり、59 歳以下の受診状況を確認したい。

事：　令和７年度の暫定値では、65～74 歳の受診率が 52.2%、40～64 歳が 29.8%で、若い世代の受診率が低い。

委：　若年層へのお知らせや勧奨は、Web や LINE 等の活用を検討しているか。

事：　若年層だけではないが、AI を活用して対象者の特性に応じた受診勧奨をはがきで通知している。昨年度、40 歳到達時に未受診だった人に夜間訪問を行い、自分は健康だから受診は必要ない、職場で受けているから必要ない等の回答が得られた。健診の必要性を伝えるために、今年度も 41 歳となった同じ対象者へ再度受診勧奨し、１月の集団の脱漏健診につなげる予定である。

委：　先ほど言われた個別訪問は労力がいる。そこに例えば IT、ICT 等が入ると現代的である。第５次計画に関わるコンサルタントから、ICT 活用等の提案はあるか。

事：　プロポーザルが終わり、契約は済んでいるが、現在はアンケート調査項目の検討段階であり、今後、アンケートの集計結果を踏まえて計画素案を作成する予定である。

委：　今回のアンケートは誰が作成したのか。

事：　第４次計画のアンケートを基に、母子、成人、歯科、食育の各部会で、職員と関係課が検討して作成した。外部コンサルタントは関与していない。

委：　当歯科医院に糖尿病連携手帳を持参し、定期的に歯科でメンテナンスを受けている患者は、HbA1c が安定している傾向がある。定期的な歯科受診による良好な血糖管理について周知してほしい。また、喫煙は口腔内の治癒力を低下させ、歯周病にもつながるため、具体的な影響を含めて啓発してほしい。

（２）健康きりしま 21（第５次）計画策定に係るアンケート内容について
⇒　事務局が資料に沿って説明。委員からの質問、意見は以下のとおり。

委：　喫煙の選択肢について、加熱式たばこと電子たばこが並列になっているが、加熱式たばこと電子たばこは別物である。水たばこは「その他」の例示とするなど、選択肢を整理すべきである。

事：　アンケート作成のワーキンググループに入っている教育委員会の先生から、水たばこには有害物質を含まない商品もあり、それは誰でも自由に購入できるため、学校現場では喫煙につながる可能性が危惧されているとの意見があり、項目に加えた。

委：　水たばこは「シーシャ」とも呼ばれ、店舗もあるようだ。

委：　医学的な分類や利用状況を踏まえて位置付けを検討すべきである。1.紙巻たばこ、２加熱式たばこ、３.電子たばこ、４.その他（水たばこ等）でいいと思う。

事：　加熱式たばこと電子たばこは選択肢を分けて修正する。

委：　飲酒は少量でも健康リスクが増えるという考え方に変化している。

事：　今回は「適量」「適正」という表現を省いた。何合ではなく、アルコール量の把握とした。また、過度な飲酒による健康リスクの説明を入れた。

委：　アンケートの中の純アルコール摂取量/日の女性 20g 以上、男性 40g 以上という表記が、安全量・適量と誤解されないよう工夫が必要である。

委：　委員の意見に関連して、アンケート内に過度な飲酒によるリスク等の説明を入れると、過剰摂取はいけないということで回答が誘導される可能性がある。回答に必要なアルコール換算表は残し、啓発的な情報は外すことも検討すべきである。

事：　情報提供を目的に掲載したが、回答への影響も考えられる。アンケート内容については検討する。

議：　情報提供には、意識づける効果と回答を誘導する可能性の両面があるため、引き続き検討してほしい。

委：　第５次計画では、運動や食事、体重管理など、市民の具体的な行動変容につながる「攻めの予防医療」の視点をアンケートに反映してほしい。

議：　アンケートを通じて意識づけを高めることもできるため、その方向で検討してほしい。

（３）その他

事：　来年度は計画策定に伴い、各委員会を年２回開催する予定である。開催方法について、対面、オンライン、ハイブリッドのいずれがよいか意見を伺いたい。

委：　会議はオンラインでよく、対面に限定する必要はない。開始時刻は 19 時でもよい。

事：　オンラインの環境がない方は会場参加とするハイブリッド方式で開催する。

会議資料	【配付資料】 ○令和８年度成人保健専門委員会資料